

第4章 都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の概況

都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲（以下、「事業実施区域周囲」という。）の概況については、福岡市東区、福岡市博多区、粕屋町、志免町のうち、主に図 4-1 に示す範囲を対象とし、既存資料を基に情報を収集・整理した。

ただし、気象、大気質、景観については、図 4-2 に示す範囲を対象とし、統計資料としては、主に福岡市東区、福岡市博多区、粕屋町、志免町を対象とした。

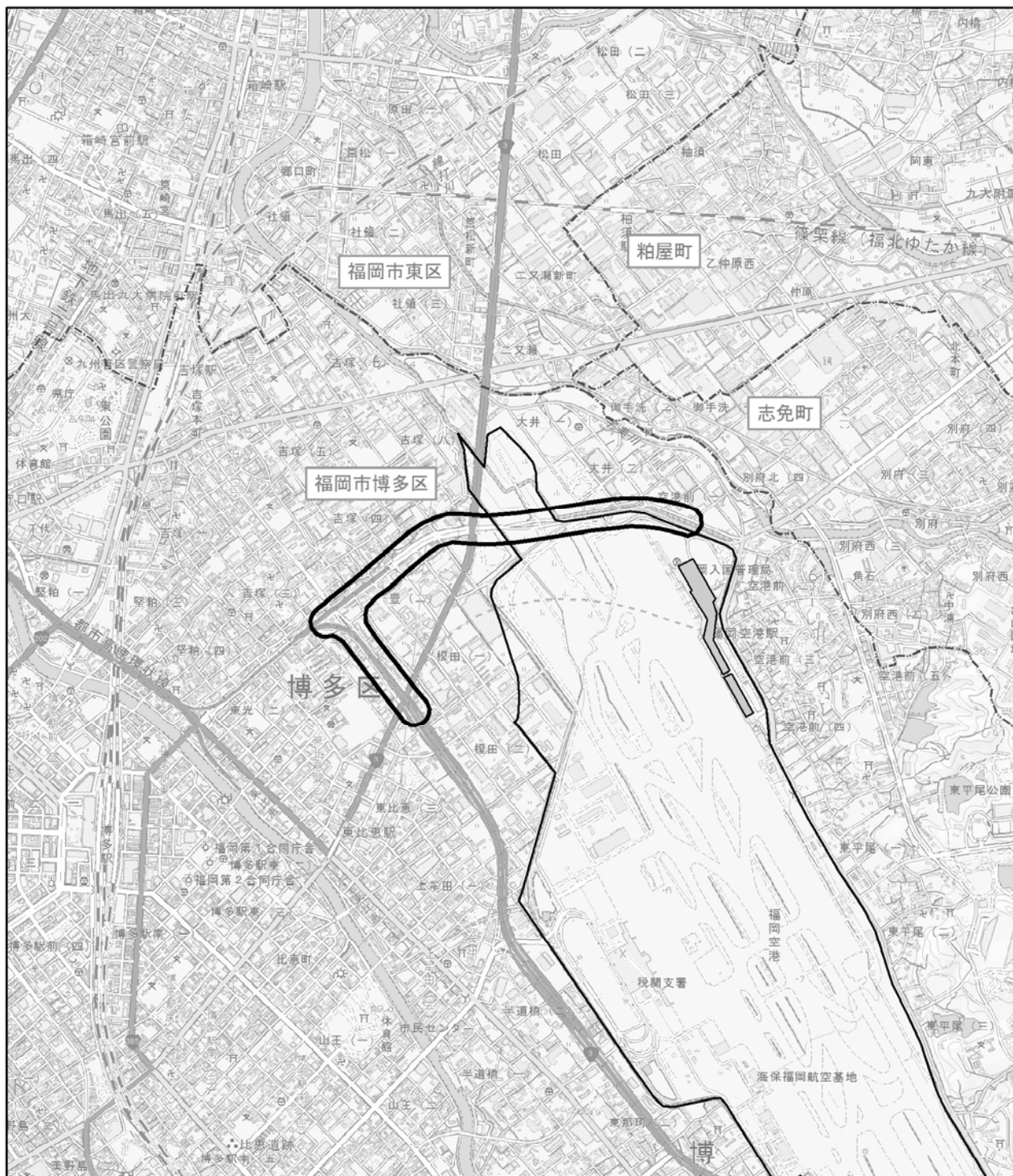
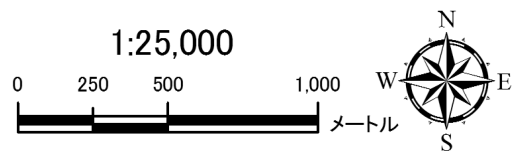


図 4-1 事業実施区域周囲の範囲

凡 例

-  都市計画対象道路事業実施区域
-  国内線旅客ターミナル
-  福岡空港
-  市町村界
-  区界



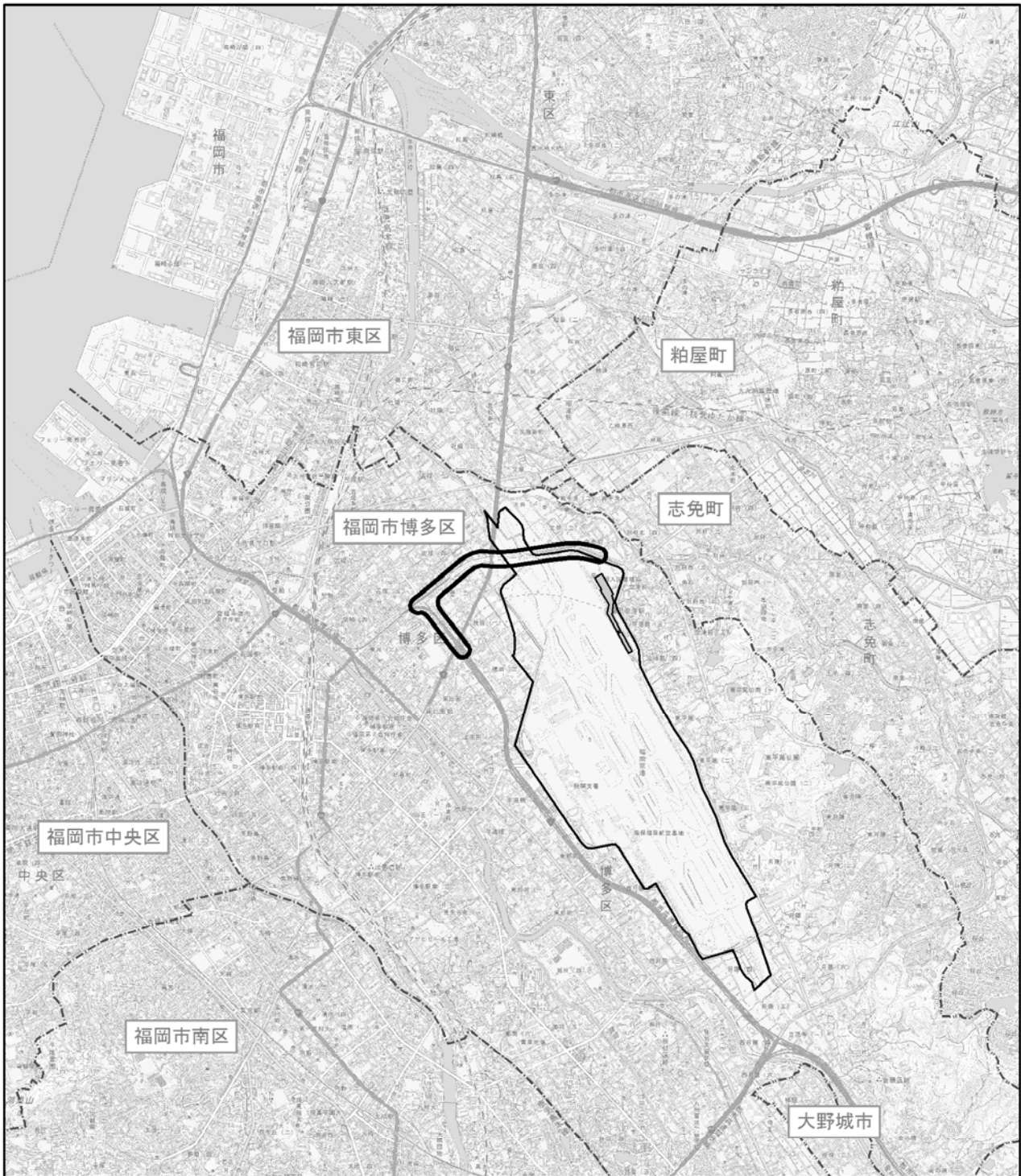
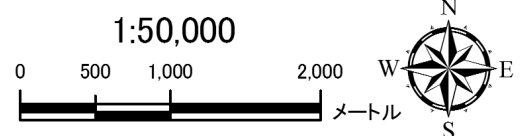


図 4-2 事業実施区域周囲の範囲（気象、大気質、景観）

凡 例

-  都市計画対象道路事業実施区域
-  国内線旅客ターミナル
-  福岡空港
-  市町村界
-  区界



4.1 自然的状況

4.1.1 気象，大気質，騒音，振動その他の大気に係る環境の状況

(1) 気象

都市計画対象道路事業実施区域に近い気象観測地点は、福岡管区気象台と福岡航空測候所の2地点であり、図 4.1.1-1 に示すとおりである。風向・風速データの測定は、一般環境大気測定局で実施されており、都市計画対象道路事業実施区域に最も近い測定地点は、一般環境大気測定局の「吉塚」(福岡市博多区吉塚 6-8) である。

気象の概況(福岡管区気象台における気象状況の平年値(1981~2010 年の平均値))は表 4.1.1-1 に示すとおりである。

事業実施区域周囲は、日本海・対馬海峡付近に面しており、冬に雲量が多い「日本海型」に近く、冬に降水量が少ない「太平洋型」に近いという特徴がある。また、筑紫山地の北側に位置し、冬型の気圧配置になると曇天になることが多く、雪が降ることもある。

平年値の平均気温は 17.0℃、平均相対湿度は 68%、年間降水量は 1612.3mm となっている。

表 4.1.1-1 気象の概況(福岡管区気象台における気象状況の平年値)

区分 月	現地気圧 (hPa)	平均気温 (℃)	相対湿度 (%)	平均風速 (m/s)	最多風向	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	降雪の深さ (cm)
1 月	1020.1	6.6	63	3.6	SE	68.0	102.1	2
2 月	1018.8	7.4	63	3.0	SE	71.5	121.0	1
3 月	1016.5	10.4	65	3.4	N	112.5	149.8	1
4 月	1013.4	15.1	65	3.2	N	116.6	181.6	—
5 月	1010.0	19.4	68	2.9	N	142.5	194.6	—
6 月	1006.5	23.0	74	2.7	N	254.8	149.4	—
7 月	1006.2	27.2	75	3.1	N	277.9	173.5	—
8 月	1006.7	28.1	72	3.1	N	172.0	202.1	—
9 月	1010.3	24.4	73	3.2	N	178.4	162.8	—
10 月	1015.5	19.2	67	3.2	N	73.7	177.1	—
11 月	1019.0	13.8	67	2.9	SE	84.8	136.3	—
12 月	1020.5	8.9	64	3.2	SE	59.8	116.7	0
全年	1013.6	17.0	68	3.1	SE	1612.3	1867.0	4

注) 最多風向のみ 1990~2010 年の 21 年間の平均値

出典: 「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ, <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)



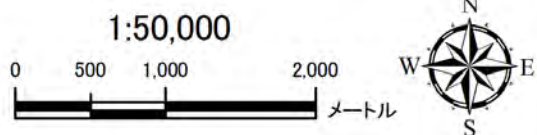
凡 例

-  都市計画対象道路事業実施区域
-  国内線旅客ターミナル
-  福岡空港
-  市町村界
-  区界
-  気象観測所

図 4.1.1-1 気象観測地点位置図（事業実施区域周囲）

※福岡管区気象台は、事業実施区域周囲外であるが、全天日射量、雲量を測定している最寄の気象観測地点である。

出典：「過去の気象データ検索」(気象庁ホームページ)



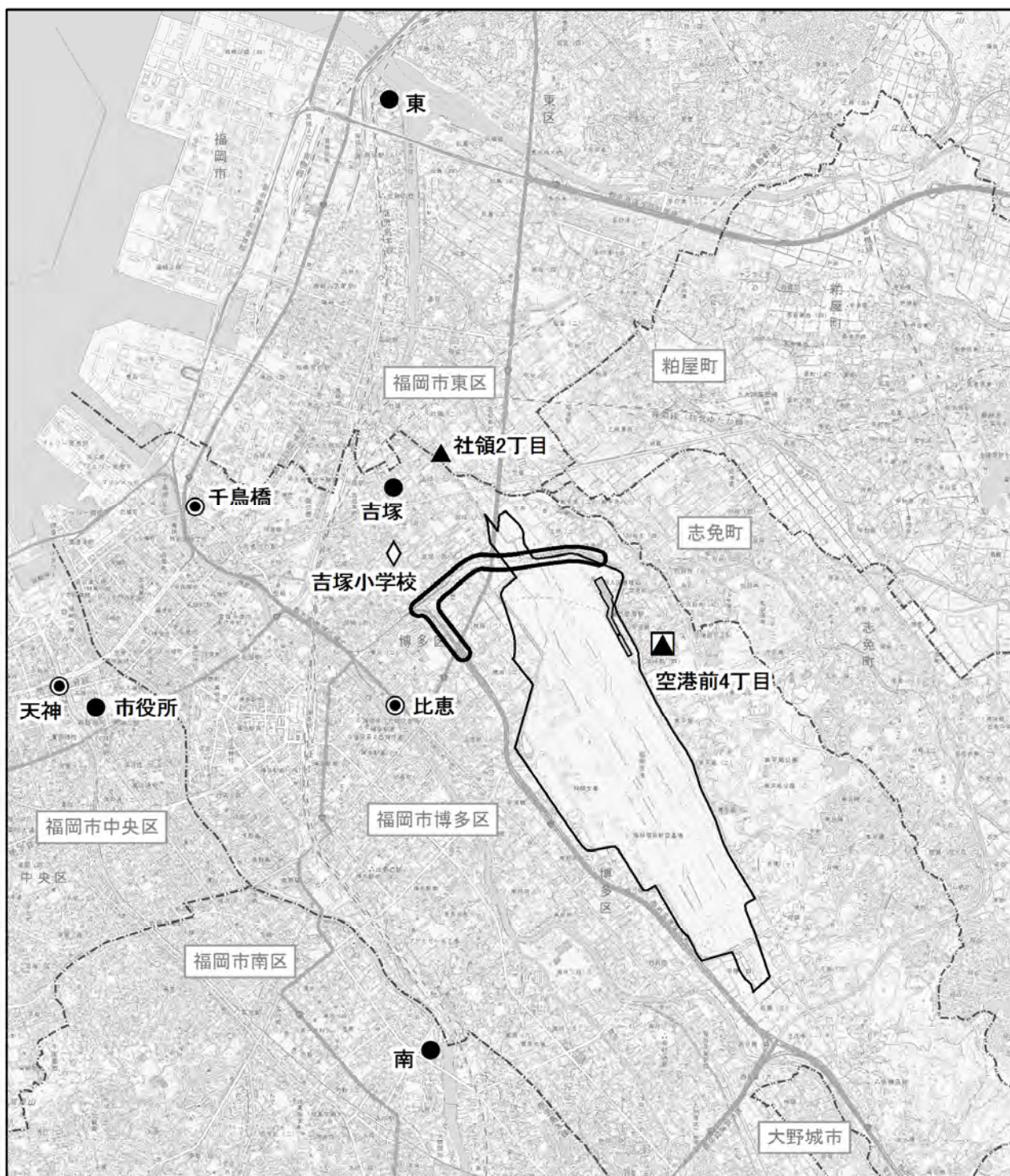
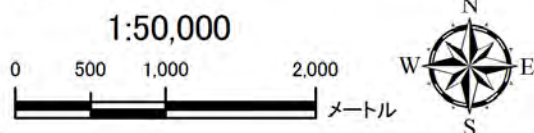


図 4.1.1-2 一般環境大気測定局等位置図（事業実施区域周囲）

凡 例

- | | |
|----------------|--------------------|
| 都市計画対象道路事業実施区域 | 一般環境大気測定局 |
| 国内線旅客ターミナル | 自動車排出ガス測定局 |
| 福岡空港 | 降下ばいじん測定地点(福岡市) |
| 市町村界 | 二酸化窒素、浮遊粒子状物質の測定地点 |
| | 降下ばいじん測定地点 |

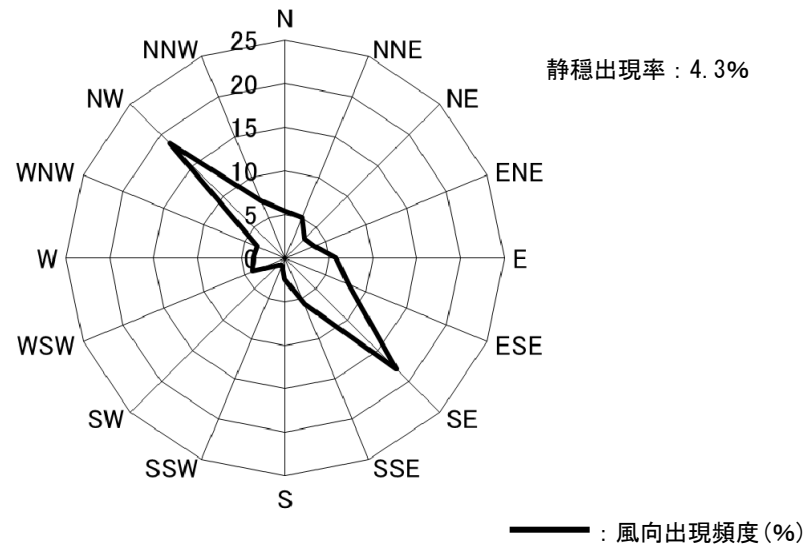
出典：「福岡市大気測定結果報告書(平成26年度(2014年度)版)
 (平成28年2月 福岡市環境局)
 「福岡県の大気環境情報」
 (<http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/taiki-new/Kkm/OyWbKkm.htm>)
 「福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書」
 (平成27年10月 国土交通省九州地方整備局 国土交通省大阪航空局)



都市計画対象道路事業実施区域の最寄の一般環境大気測定局「吉塚」における平成 26 年度の風の状況及び風向・風速観測結果は、図 4.1.1-3 及び表 4.1.1-2 のとおりである。

年間最多風向としては、北西（18.6%）、次いで南東（18.0%）、東南東（7.8%）の順で発生頻度が高くなっている。なお、静穏出現率は 4.3%である。

月間の最多風向は表 4.1.1-2 に示すとおり、南東の風となる月数が多く、年間で 7 ヶ月を占めている。それ以外では、北西の風が 4 ヶ月、北北東の風が 1 ヶ月となっている。また平均風速は、1.7m/s(9 月)～2.8m/s(12 月)の範囲にある。



注) 静穏出現率は、風速 0.4m/s 以下の状態が出現する頻度を指す。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」
（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

図 4.1.1-3 平成 26 年度の風の状況（「吉塚」における年間風配図）

表 4.1.1-2 風向・風速観測結果(吉塚)

項目	平成 26 年									平成 27 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
最多風向	北西	南東	北西	南東	南東	北北東	南東	南東	北西	南東	南東	北西
平均風速 (m/s)	2	2.2	2	2.1	2.1	1.7	2.1	1.8	2.8	2.4	2.2	2.1
1 時間値の風速 最高値 (m/s)	6	6	5.9	6.3	6.9	5.8	8	6.8	7.9	8.4	6.4	7.8

出典：「福岡市環境局環境監理部環境保全課資料」をもとに作成

福岡管区気象台における平成 26 年度の全天日射量と雲量観測結果は表 4.1.1-3 に示すとおりであり、全天日射量の最大は 5 月で 21.2MJ/m²であり、最小は 12 月の 6.5MJ/m²である。また雲量としては、8 月に最大で 9.2、10 月に最小で 5.4 である。

表 4.1.1-3 全天日射量と雲量観測結果(福岡管区気象台)

項目	平成 26 年									平成 27 年		
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
全天日射量 (MJ/ m ²)	15.7	21.2	13.6	14.7	10.7	14.2	12.4	8.7	6.5	7.1	9.8	15.5
雲量	6.2	6.1	9.0	8.2	9.2	7.0	5.4	6.2	7.6	7.4	7.3	6.1

出典：「過去の気象データ検索」（気象庁ホームページ, <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

(2) 大気質

事業実施区域周囲には図 4.1.1-2 に示すとおり、一般環境大気測定局が 4 局あり、自動車排出ガス測定局が 3 局ある。また、吉塚小学校では降下ばいじんの測定が行われている。これらの測定局及び測定項目は表 4.1.1-4(1) に示すとおりである。

表 4.1.1-4(1) 一般環境大気測定局等及び測定項目

測定局名		測定項目								
測定局名		二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	有害大気汚染物質	ダイオキシン類	降下ばいじん
一般環境大気	東	—	○	—	○	○	—	—	—	—
	吉塚	○	○	—	○	○	○	○	○	—
	市役所	○	○	—	○	○	○	—	○	—
	南	—	○	—	○	○	—	○	○	—
自動車排出ガス	比恵	—	○	—	—	○	—	—	—	—
	千鳥橋	—	○	—	—	○	○	—	—	—
	天神	○	○	○	—	○	—	—	—	—
吉塚小学校		—	—	—	—	—	—	—	—	○

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」
（平成 28 年 2 月，福岡市環境局）

上記以外の 2 地点において、二酸化窒素、浮遊粒子状物質が測定されている。そのうち、1 地点については、降下ばいじんの測定も行われている。これらの測定地点及び測定項目は、表 4.1.1-4(2) に示すとおりである。

表 4.1.1-4(2) 一般環境大気測定局等及び測定項目

測定局名	測定項目		
測定局名	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	降下ばいじん
空港前 4 丁目	○	○	○
社領 2 丁目	○	○	—

出典：「福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書」（平成 27 年 10 月 国土交通省九州地方整備局 国土交通省大阪航空局）

1) 二酸化硫黄

二酸化硫黄の測定結果及び年平均値の経年変化は、表 4.1.1-5、表 4.1.1-6 及び図 4.1.1-4 に示すとおりである。平成 26 年度の測定結果では、全ての測定局において環境基準を達成しており、経年変化については低濃度で推移している。

表 4.1.1-5 二酸化硫黄の測定結果（平成 26 年度）

測定局名	年平均値	日平均値の 年間 2%除外値	日平均値が 0.04ppm を 超えた日が 2 日以上連 続したことの有無	環境基準	環境基準 との比較
	(ppm)	(ppm)			
吉塚	0.002	0.006	無	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、 1 時間値が 0.1ppm 以下であ ること。	○
市役所	0.002	0.006			
天神	0.003	0.007			

注) 環境基準との比較では、日平均値の年間 2%除外値が 0.04ppm 以下であり、かつ、年間を通じて日平均値が 0.04ppm を超える日が 2 日以上連続しないこと（長期的評価）を満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

表 4.1.1-6 二酸化硫黄の年平均値の経年変化

測定局名	年平均値 (ppm)				
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
吉塚	0.002	0.002	0.003	0.003	0.002
市役所	0.003	0.003	0.003	0.002	0.002
天神	0.005	0.005	0.003	0.002	0.003

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

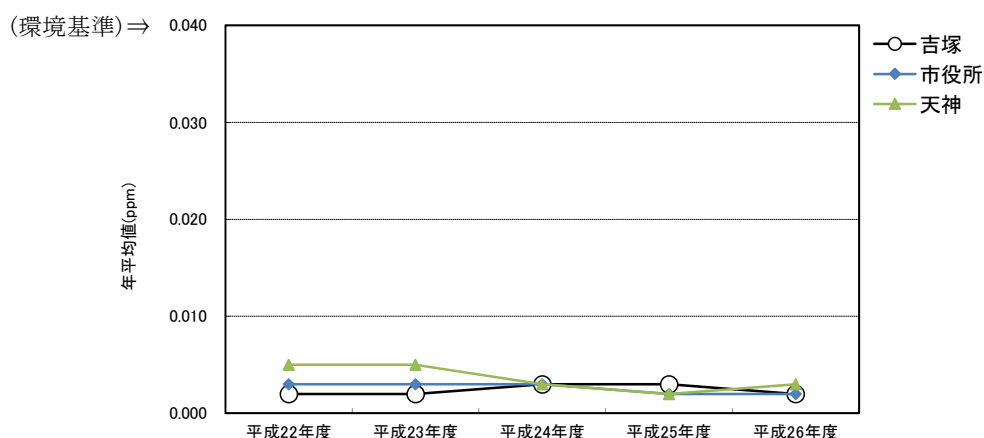


図 4.1.1-4 二酸化硫黄の年平均値の経年変化

2) 二酸化窒素

二酸化窒素の測定結果及び年平均値の経年変化は、表 4.1.1-7、表 4.1.1-8 及び図 4.1.1-5 に示すとおりである。平成 26 年度の測定結果では、全ての測定局において環境基準を達成しており、経年変化については低濃度で推移している。

表 4.1.1-7(1) 二酸化窒素の測定結果（平成 26 年度）

測定局名	年平均値	日平均値の 年間 98% 値	環境基準	環境基準 との比較
	(ppm)	(ppm)		
東	0.015	0.031	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm まで のゾーン内又はそれ以下で あること。	○
吉塚	0.014	0.031		○
市役所	0.017	0.030		○
南	0.012	0.022		○
比恵	0.020	0.036		○
千鳥橋	0.020	0.037		○
天神	0.034	0.053		○

注) 環境基準との比較では、日平均値の年間 98% 値が 0.06ppm 以下であることを満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

表 4.1.1-7(2) 二酸化窒素の測定結果（平成 25 年度）

測定局名	日平均値 の最高値	環境基準	環境基準 との比較
	(ppm)		
空港前 4 丁目	0.011～0.023	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又は それ以下であること。	○
社領 2 丁目	0.010～0.038		○

注 1) 数値は、4 季節の測定値のうちの最低値と最高値を示している。

注 2) 調査実施日は、春季：平成 25 年 5 月 18 日～24 日、夏季：平成 25 年 7 月 20 日～26 日、
秋季：平成 25 年 9 月 25 日～10 月 1 日、冬季：平成 25 年 12 月 14 日～20 日

出典：「福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書」（平成 27 年 10 月 国土交通省九州地方整備局 国土交通省大阪航空局）

表 4.1.1-8 二酸化窒素の年平均値の経年変化

測定局名	年平均値 (ppm)				
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
東	0.017	0.016	0.015	0.015	0.015
吉塚	0.014	0.016	0.016	0.015	0.014
市役所	0.020	0.019	0.018	0.016	0.017
南	0.014	0.013	0.012	0.012	0.012
比恵	0.018	0.017	0.020	0.020	0.020
千鳥橋	0.023	0.022	0.021	0.020	0.020
天神	0.039	0.035	0.035	0.035	0.034

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月，福岡市環境局）

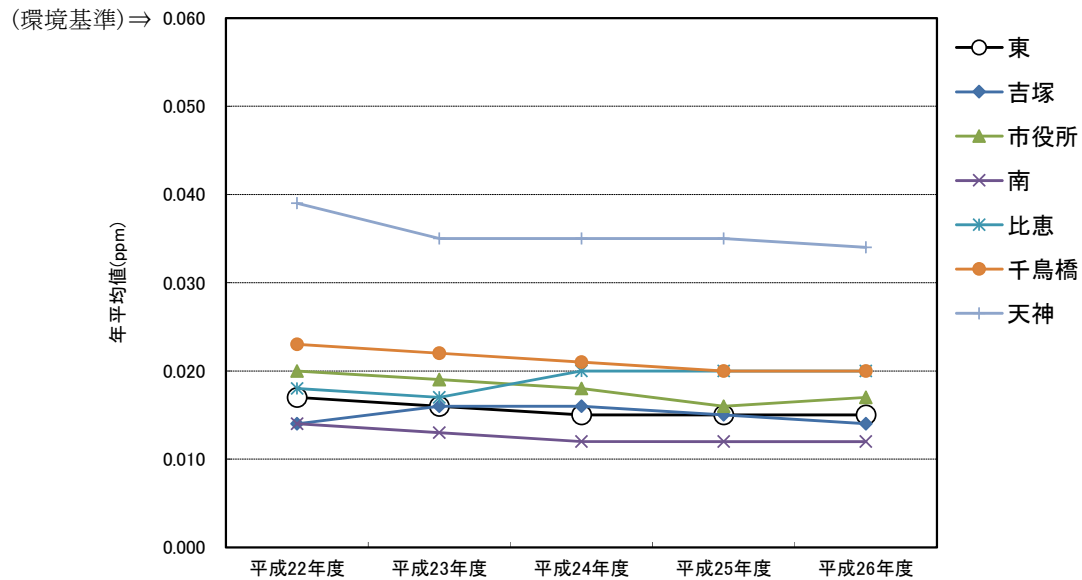


図 4.1.1-5 二酸化窒素の年平均値の経年変化

3) 一酸化炭素

一酸化炭素の測定結果及び年平均値の経年変化は、表 4.1.1-9、表 4.1.1-10 及び図 4.1.1-6 に示すとおりである。平成 26 年度の測定結果では、天神測定局において環境基準を達成しており、経年変化については低濃度で推移している。

表 4.1.1-9 一酸化炭素の測定結果（平成 26 年度）

測定局名	年平均値	日平均値の 年間 2%除外値	日平均値が 10ppm を 超えた日が 2 日以上 連続したことの有無	環境基準	環境基準 との比較
	(ppm)	(ppm)			
天神	1.1	1.8	無	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、 1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であること。	○

注) 環境基準との比較では、日平均値の年間 2%除外値が 10ppm 以下であり、かつ、年間を通じて日平均値が 10ppm を超える日が 2 日以上連続しないこと（長期的評価）を満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

表 4.1.1-10 一酸化炭素の年平均値の経年変化

測定局名	年平均値 (ppm)				
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
天神	0.9	1.0	1.0	1.1	1.1

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

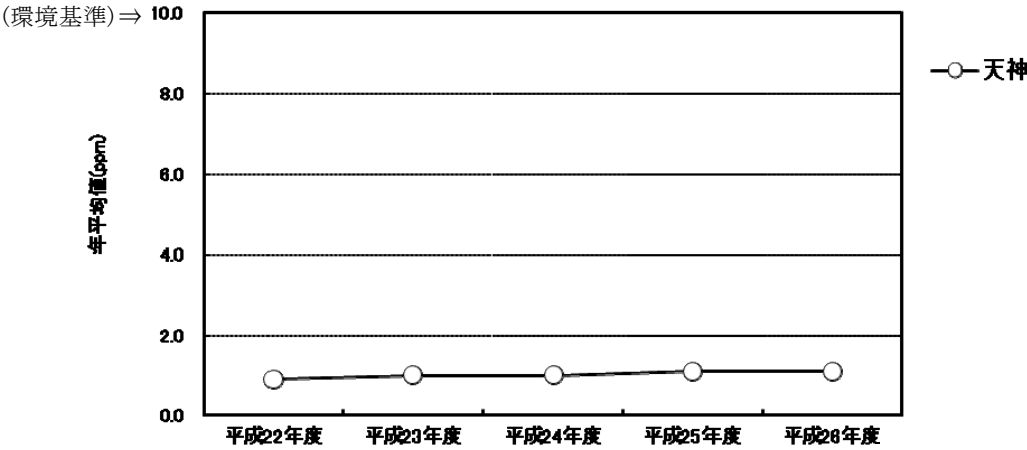


図 4.1.1-6 一酸化炭素の年平均値の経年変化

4) 光化学オキシダント

光化学オキシダントの測定結果及び年平均値の経年変化は、表 4.1.1-11、表 4.1.1-12 及び図 4.1.1-7 に示すとおりである。平成 26 年度の測定結果では、全ての測定局において環境基準を達成しておらず、経年変化については横ばい傾向にある。

なお、「平成 26 年度大気汚染状況について」（環境省報道発表資料 <http://www.env.go.jp/air/osen/index.html>）によれば、平成 26 年度の光化学オキシダントの環境基準を達成している測定局は全国の一般局で 0.0%，自排局で 3.6%であり、その達成状況はきわめて低い水準で推移している。

表 4.1.1-11 光化学オキシダントの測定結果（平成 26 年度）

測定局名	昼間の 1 時間 値の年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を 超えた日数と時間数		環境基準	環境基準 との比較
	(ppm)	(日)	(時間)		
東	0.034	69	365	1 時間値が 0.06ppm 以下であ ること。	×
吉塚	0.035	73	418		×
市役所	0.032	56	301		×
南	0.035	75	384		×

注)環境基準との比較では、昼間の 1 時間値が年間を通じて 0.06ppm 以下であることを満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。なお、昼間とは 5 時から 20 時までの時間帯をいう。したがって、1 時間値は 6 時から 20 時まで得られることになる。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月，福岡市環境局）

表 4.1.1-12 光化学オキシダント（昼間の 1 時間値）の年平均値の経年変化

測定局名	年平均値 (ppm)				
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
東	0.033	0.030	0.031	0.031	0.034
吉塚	0.032	0.030	0.033	0.033	0.035
市役所	0.030	0.026	0.029	0.032	0.032
南	0.035	0.030	0.031	0.031	0.035

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月，福岡市環境局）

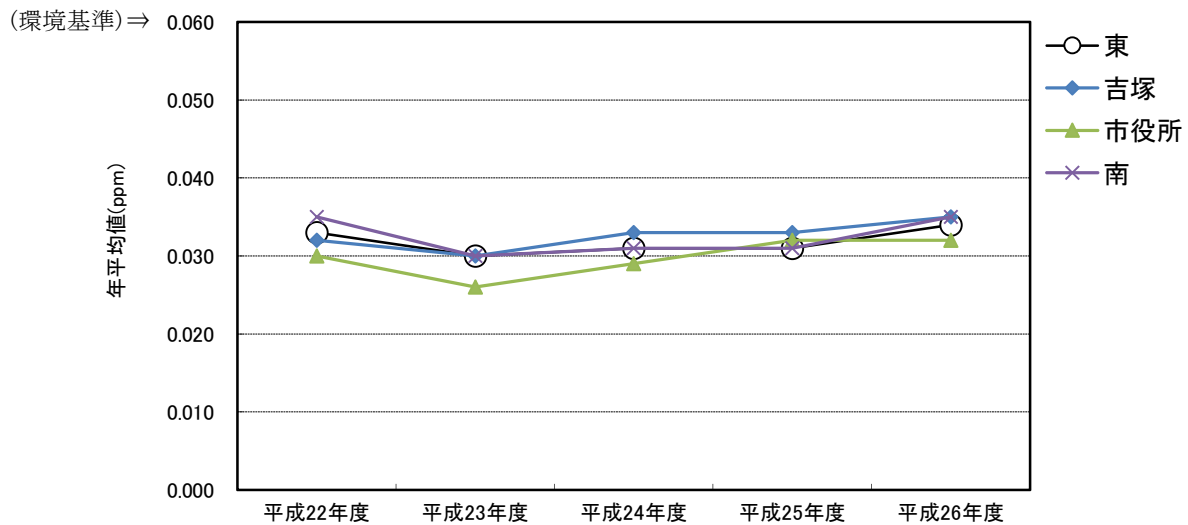


図 4.1.1-7 光化学オキシダント（昼間の1時間値）の年平均値の経年変化

5) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の測定結果及び年平均値の経年変化は、表 4.1.1-13、表 4.1.1-14 及び図 4.1.1-8 に示すとおりである。平成 26 年度の測定結果では、全ての測定局において環境基準を達成しており、経年変化については低濃度で推移している。

経年的に見た場合、環境基準の達成状況を達成できていない箇所がある。

表 4.1.1-13 (1) 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 26 年度）

測定局名	年平均値	日平均値の 年間 2%除外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を 超えた日が 2 日以上連続 したことの有無	環境基準	環境基準 との比較
	(mg/m ³)	(mg/m ³)			
東	0.019	0.040	無	1 時間値の 1 日平均 値が 0.10mg/m ³ 以下で あり、かつ、1 時間値 が 0.20mg/m ³ 以下であ ること。	○
吉塚	0.023	0.057	無		○
市役所	0.027	0.063	無		○
南	0.016	0.045	無		○
比恵	0.026	0.061	無		○
千鳥橋	0.024	0.057	無		○
天神	0.027	0.054	無		○

注) 環境基準との比較では、次のとおり表示している。

日平均値の年間 2%除外値を基準値 (0.10mg/m³) として評価を行う。ただし、2 日連続して環境基準を超過した場合には環境基準を達成していないと評価する。

環境基準を満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

表 4.1.1-13 (2) 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 25 年度）

測定局名	日平均値 の最高値	1 時間値の最高値	環境基準	環境基準 との比較
	(mg/m ³)	(mg/m ³)		
空港前 4 丁目	0.025～0.073	0.047～0.148	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり，かつ，1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること。	○/○
社領 2 丁目	0.024～0.064	0.042～0.101		○/○

注 1) 数値は，4 季節の測定値のうちの最低値と最高値を示している。

注 2) 調査実施日は，春季：平成 25 年 5 月 18 日～24 日，夏季：平成 25 年 7 月 20 日～26 日，秋季：平成 25 年 9 月 25 日～10 月 1 日，冬季：平成 25 年 12 月 14 日～20 日

出典：「福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書」（平成 27 年 10 月 国土交通省九州地方整備局 国土交通省大阪航空局）

表 4.1.1-14 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

測定局名	年平均値 (mg/m ³)				
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
東	0.021	0.021	0.020	0.021	0.019
吉塚	0.028	0.025	0.030	0.027	0.023
市役所	0.031	0.029	0.024	0.025	0.027
南	0.016	0.016	0.016	0.017	0.016
比恵	0.031	0.028	0.024	0.027	0.026
千鳥橋	0.025	0.024	0.022	0.025	0.024
天神	0.030	0.027	0.027	0.027	0.027

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月，福岡市環境局）

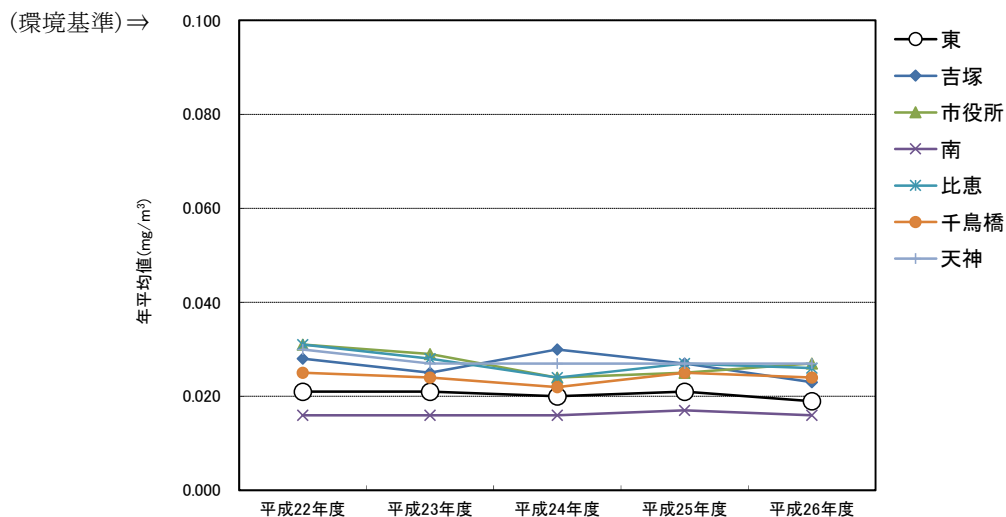


図 4.1.1-8 浮遊粒子状物質の年平均値の経年変化

表 4.1.1-15 浮遊粒子状物質の日平均値が0.10mg/m³を越えた日が2日以上連続したことの有無

測定局名	浮遊粒子状物質の日平均値が0.10mg/m ³ を越えた日が2日以上連続したことの有無				
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
東	有	有	無	無	無
吉塚	有	有	無	無	無
市役所	有	有	無	無	無
南	無	有	無	無	無
比恵	有	有	無	無	無
千鳥橋	有	有	無	無	無
天神	有	有	無	無	無

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成26年度（2014年度）版）」（平成28年2月，福岡市環境局）

6) 微小粒子状物質

微小粒子状物質の平成26年度の測定結果は，表4.1.1-16に示すとおりである。全ての測定局において，環境基準を達成していない。

表 4.1.1-16 微小粒子状物質の測定結果（平成26年度）

測定局名	年平均値	日平均値の 年間98%値	環境基準	環境基準 との比較
	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)		
吉塚	17.8	41.1	1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下で あり，かつ，1日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。	×
市役所	18.4	42.2		×
千鳥橋	18.6	43.6		×

注) 環境基準との比較では，1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり，かつ，1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることを満たしている場合は「○」，満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成26年度（2014年度）版）」（平成28年2月，福岡市環境局）

7) 有害大気汚染物質

有害大気汚染物質の平成 26 年度の測定結果は、表 4.1.1-17 に示すとおりである。全ての測定局において環境基準を達成している。

表 4.1.1-17 有害大気汚染物質（年平均値）の測定結果（平成 26 年度）

測定局名	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン
吉塚	0.94 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.033 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.14 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.94 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
南	0.94 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.024 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.084 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.87 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
環境基準	1 年平均値が 0.003mg/ m^3 以下 (3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) であること。	1 年平均値が 0.2mg/ m^3 以下 (200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) であること。	1 年平均値が 0.2mg/ m^3 以下 (200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) であること。	1 年平均値が 0.15mg/ m^3 以下 (150 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) であること。
環境基準 との比較	○	○	○	○

注) 環境基準との比較では、1 年平均値が 0.2mg/ m^3 以下 (200 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) であること。を満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月，福岡市環境局）

8) ダイオキシン類

ダイオキシン類（大気）の平成 26 年度の測定結果は、表 4.1.1-18 に示すとおりである。全ての測定局において環境基準を達成している。

表 4.1.1-18 ダイオキシン類（大気）の測定結果（平成 26 年度）

測定局名	年平均値	環境基準	環境基準との比較
	(pg-TEQ/m ³)		
吉塚	0.014	0.6pg-TEQ/m ³ 以下であること。	○
市役所	0.018		○
南	0.013		○

注1) pg(ピコグラム)：1 兆分の 1 グラム

注2)

注 2) TEQ(毒性等量)：ダイオキシン類はそれぞれ毒性の強さが異なるため、最も毒性の強い 2,3,7,8-TCDD の毒性を 1 として他のダイオキシン類の毒性を換算した合計量。

注 3) 環境基準との比較では、1 年平均値が 0.6pg-TEQ/m³ 以下であることを満たしている場合は「○」、満たしていない場合は「×」と表示している。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

9) 降下ばいじん

降下ばいじんの平成 26 年度の測定結果は、表 4.1.1-19 に示すとおりであり、参考値を下回っている。

降下ばいじん量の年平均値の経年変化は、表 4.1.1-20 に示すとおりである。吉塚小学校における年平均値の経年変化については横ばい傾向にあり、いずれも参考値を下回っている。また、月別の降下ばいじん量の変動は、図 4.1.1-9 に示すとおりであり、冬季から春季にかけて高くなる傾向にある。

表 4.1.1-19(1) 降下ばいじんの測定結果（平成 26 年度）

測定局名	測定値 (t/km ² /月)	参考値
吉塚小学校	2.5	10 t/km ² /月

注) 参考値は、降下ばいじん量の比較的高い地域の値とした。この値は、平成 5 年度から平成 9 年度に全国の一般環境大気測定局で測定された降下ばいじん量のデータから上位 2%を除外して得られた値である。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月、福岡市環境局）

表 4.1.1-19(2) 降下ばいじんの測定結果（平成 25 年度）

測定局名	測定値 (t/km ² /月)	参考値
空港前 4 丁目	1.8～3.4	10 t/km ² /月

注 1) 数値は、4 季節の測定値のうちの最低値と最高値を示している。

注 2) 調査実施日は、春季：平成 25 年 5 月 15 日～6 月 13 日、夏季：平成 25 年 7 月 3 日～8 月 1 日、秋季：平成 25 年 9 月 21 日～10 月 20 日、冬季：平成 25 年 11 月 23 日～12 月 22 日。

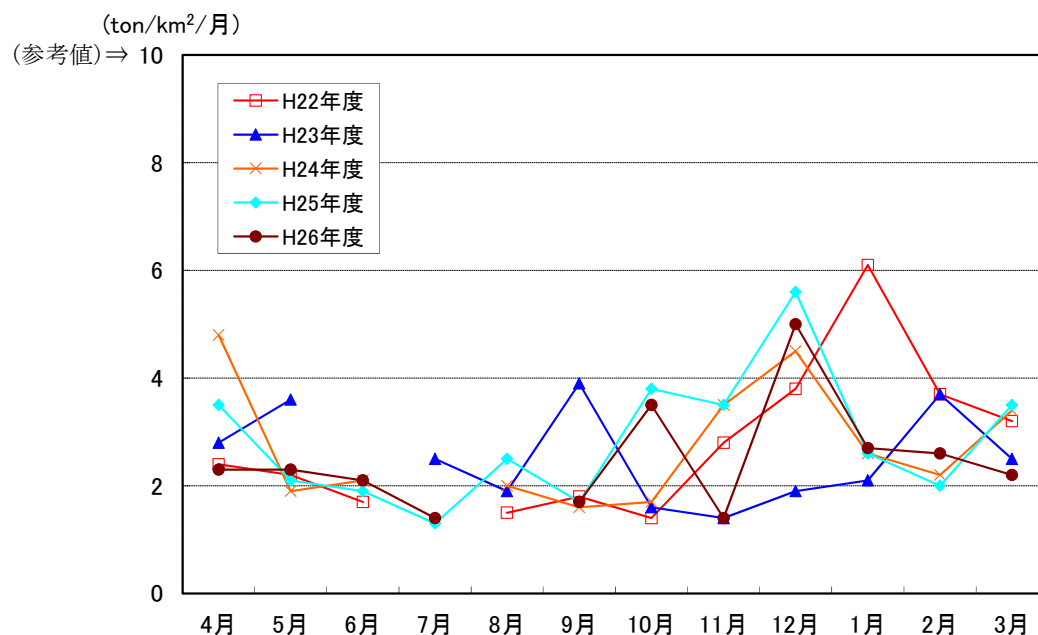
出典：「福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書」（平成 27 年 10 月 国土交通省九州地方整備局 国土交通省大阪航空局）

表 4.1.1-20 降下ばいじん量の年平均値の経年変化

測定局名	年平均値 (t/km ² /月)					参考値
	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	
吉塚小学校	2.8	2.5	2.8	2.8	2.5	10

注) 参考値は、降下ばいじん量の比較的高い地域の値とした。この値は、平成 5 年度から平成 9 年度に全国の一般環境大気測定局で測定された降下ばいじん量のデータから上位 2%を除外して得られた値である。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月，福岡市環境局）



注) 平成 22 年度及び 24 年度の 7 月，平成 23 年度の 6 月，平成 26 年度の 8 月は欠測である。

出典：「福岡市大気測定結果報告書（平成 26 年度（2014 年度）版）」（平成 28 年 2 月，福岡市環境局）
「福岡市大気測定結果報告書（平成 25 年度（2013 年度）版）」（平成 26 年 12 月，福岡市環境局）
「福岡市大気測定結果報告書（平成 24 年度（2012 年度）版）」（平成 26 年 2 月，福岡市環境局）
「福岡市大気測定結果報告書（平成 23 年度（2011 年度）版）」（平成 25 年 1 月，福岡市環境局）
「福岡市大気測定結果報告書（平成 22 年度（2010 年度）版）」（平成 24 年 2 月，福岡市環境局）

図 4.1.1-9 月別の降下ばいじん量の変動